



真渡西光寺の阿弥陀如来とわきだち

残っている。輝井明神の別当は洞本院という修験で、宝永の頃（一七〇四〜一七一〇）いたとあるから、或はそれかも知れない。

もう一カ寺は、現在無住になっているが、曹洞宗の東照山西光寺で、この南につづく墓地に五輪の見事なのが五基あり、当時二〇世確然泰信大和尚、寛文九年（一六

六九）三月二十二日などの碑もみえるから、決して新しい寺院ではない。正保の頃（一六四四〜一六四七）北青木恵倫寺の末寺となるとある。本尊は阿弥陀如来で御丈六三センチ、ここには開山堂二代延宝六年（一六七八）の像や、文政二年（一八一九）の繪旨、文政十年（一八二七）の祈願書なども保存されているが、あまり古いものではない。



真渡西光寺のわきだち